

## IPA との意見交換会開催報告

令和 5 年 1 月 30 日(月)、JISA と(独)情報処理推進機構(IPA)の両幹部による意見交換会を IPA のオフィスでハイブリッド形式にて開催した。対面での開催は 3 年ぶり。本会合は、両団体の連携維持強化を目的として毎年 1 回開催している。

JISA からは、長坂、船越、福永、佐々木、尾本副会長、宮本副会長・専務理事、栗田常務理事・事務局長、手計理事・事業推進本部長、IPA からは、富田理事長、小宮山理事、奥村理事、各センター幹部ら、19 名が出席した。

会議では、IPA から富田理事長が挨拶に立ち、対面でのリアル開催は 3 年ぶりだが、コロナ禍のなか、テレワークで IT の活用が進んだことにより、IT に対する意識が相当高まったのではないかと、IPA が実施している IT パスポート試験でユーザー企業の受験者が大幅に増加している事実をひいて紹介された。

JISA からは、福永副会長が挨拶した。福永副会長は、JISA では、2021 年に「JISA2030 デジタル技術で人が輝く社会を創る」との新たなステートメントを定め、それまでの会員企業間の共益指向の活動から、社会全体のデジタル化を推進する活動にシフトしたこと、現在は、社会のデジタル化をリードすべく、自治体との連携による地域課題を解決するアクションを起こしたり、IT エンジニアを高度プロフェッショナルに育てる NTC プロジェクトなどの施策を推進していることを紹介した。

報告に入って、JISA からは委員会関係を中心に活動を紹介した。IPA からは、新たに、デジタル社会の基盤となるソフトウェア技術に係る CoE (Center of Excellence) 機能の確保と利用促進に向けた標準化等を推進することが紹介された。このほか、昨年 8 月に社会基盤センターから分離独立組織となった、デジタル・アーキテクチャ・デザインセンター (DADC) を含め、各センターの主要事業の報告があった。

(田中)